

名古屋の不動産会社、18年秋開業へ

元 漢検協ビルに 客室300超ホテル

不動産管理のユニホー（名古屋市）は、京都市下京区烏丸通松原下ルに所有するビル2棟を解体し、客室300室を超す大型のビジネスホテルを新築する。京都でのホテル開発は初めて。2018年秋の開業を目指す。

2棟は隣接し、うち1棟はかつて公益財団法人・日本漢字能力検定協会（東山区）の元理事長の親族企業が所有し、同協会の本部が賃貸で入居していた。ビルは別会社に売却され、ユニホーが50億円近くを投じ、昨年7月に両棟と土地を購入



解体してビジネスホテルとなる元日本漢字能力検定協会本部ビル（京都市下京区烏丸通松原下ル）

入した。

新築する「烏丸五条ホテル（仮称）」は地上10階建て。客室は305室設ける。不動産取得を含む総投資額は約100億円。ビジネス利用のほか訪日観光客の需要を見込む。ホテル運営は他社に委託し、完成後に土地と建物は売却する方針。

ユニホーは東海や関東地方を地盤とする不動産グループ、ZENホールディングス（東京）の中核事業会社。主力は住宅分譲やマンション管理だが、東京・銀座に今秋オープンするビジネスホテルの開発を皮切りに、ホテルの「建て売り」事業に本格参入した。

漢検協は元正副理事長の父子による背任事件を受けて運営の改善を進め、今年5月に完成した「漢検漢字博物館・図書館」（漢字ミュージアム、東山区）内に移転した。（柿木拓洋）